

令和3年度地域管理経営計画等に関する検討会
委員からの主な意見等

(施業方法の見直し)

- 長伐期施業を通常伐期施業へ変更した理由はなにか。

【事務局回答】

四国局は長伐期施業が多く全体の約7割が長伐期施業となっている。長伐期施業にして、これまで積極的な間伐を実施してきたところであるが、齡級構成の平準化や森林の若返りを図る必要があるため、長伐期施業を通常伐期へ徐々に見直すこととしている。

- 3計画区とも育成複層林施業がわずかであるが減っている。その理由はなにか。

【事務局回答】

現況育成複層林になっているもののうち、広葉樹が侵入して天然林になっているものについては、現況に合わせて天然林施業へ見直しをしている。

(林道の計画面積)

- 林道開設量が減少している理由は何か。また、林道の改良とはどのような趣旨で行われるのか。

【事務局回答】

次期計画では、既存林道の改良（修繕）を優先するため林道開設が減少している。林道の改良とは、被害箇所などの修繕や林道幅員を広げる拡幅も含まれ、林道の改良により大型トラックの走行が容易となる。

(伐採計画面積と実行)

- 伐採実行量が計画面積に対して低い理由はなにか。

【事務局回答】

一般競争入札によって立木販売契約や請負契約を結んでいる。入札不調や一者応札などがあり計画に対して実行率が低い。一者応札や入札不調などについては、今後、入札に関する諸条件の緩和など改善を図ることとしている。

(大径材)

- このまま木が成長していくと大径木が増えてくると思うが、大径木の需要はどうか。

【事務局回答】

大径材が増えると製材がしにくくなるため、販売は厳しくなると考えるが、柱角だけでなく集成材の需要も増えており、これまで以上に川上、川中、川下への皆さんとも協力しながら対応してまいりたい。